

令和6年度第1回志摩市総合教育会議 議事録（概要）

- 1 日 時 令和6年7月22日（月）13：30～15：00
- 2 場 所 志摩市役所5階 庁議室
- 3 出席者 橋爪政吉市長、舟戸宏一教育長、山下行重教育長職務代理者、  
坂中小百合教育委員、柴原千峰教育委員、茶呑潤造教育委員  
  
(事務局) 井上教育部長、前田教育総務課長、金光学校教育課長、  
村井学校教育課副参事  
山本政策推進部長、坂井総合政策課長、米奥係長、松井主査
- 4 議 題 (1) 防災・減災教育の推進  
(2) キャリア教育の推進

事務局	<p>定刻前でございますが、委員の皆様がお揃いですので、只今から令和6年度第1回志摩市総合教育会議を始めさせていただきます。</p> <p>本日はお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>本日の司会を務めさせていただきます総合政策課課長の坂井と申し上げます。どうぞよろしくお願いたします。</p> <p>まず初めに、昨年度の総合教育会議から委員の交代がございましたので、ご紹介をさせていただきたいと思ひます。</p>
教育委員	<p><b>【自己紹介】</b></p>
事務局	<p>それでは会議に先立ちまして、橋爪市長よりご挨拶を申し上げます。</p>
市長	<p>お忙しい中皆様におかれましては、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>本日の会議においては、「防災・減災教育」、そして「キャリア教育」の2つの議題について議論いただきたいと思っております。</p> <p>本年度の施政方針の5つの重点分野の1つに、「命を守る防災・減災対策のさらなる加速」を位置付けさせていただいております。</p>

事務局	<p>当市の防災施策において、「逃げ遅れゼロ」ということを掲げさせていただいており、現在、様々な施策を実行しているところです。</p> <p>そのような中、学校教育においても、色々な避難訓練や取組を進めていただいているとお聞きしていますが、一人ひとりの避難経路であるとか、そういった部分の確認をしていくことが非常に重要と考えております。また、そうすることが子どもたちの防災意識の向上にも繋がってくると思いますので、大変重要な取組であると感じております。</p> <p>また、昨年のG7伊勢志摩交通大臣会合をきっかけに、各校において、海外の政府関係者の皆様と交流する機会が非常に多かったように感じております。</p> <p>大変良いきっかけをいただいたと感じておりますので、ぜひ子どもたちが小さい枠に捉われることなく、様々な可能性を見出して、それぞれの人生の色々な節目になればと思っております。本当に良いきっかけだったと感じております。</p> <p>また、こういった活動が子どもたちの広い視野を作ること、それぞれの進路選択等々にも繋がってくる、そんなキャリア教育にもしっかりと取り組みたいと思っておりますので、引き続き皆様にもご理解ご協力いただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>最後になりますが、本日は皆様にお時間を頂戴いたしまして、忌憚のないご意見が活発に展開されるお時間になりますことを心からお祈りいたしまして、私の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>ありがとうございました。それではここで本日の資料の確認をさせていただきます。</p> <p>本日委員の皆様にお配りしました資料については、全部で3部です。まず事項書が1枚。続いてカラー刷りのホチキス止めの資料が1部、続いて「志摩市総合教育会議設置要綱」が1枚。資料については、前のモニターにも投影いたしますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>また、本日の会議につきましては、志摩市総合教育会議設置要綱第6条の規定により公開で開催するとともに、議事録につきましては、後日、市ホームページにおいて公開の方をさせていただきますので、ご了承ください。</p> <p>続きまして、議長の選出に移ります。</p> <p>本会議の議長ですが、同設置要綱第4条第3項の規定により、市長に議長をお願いいたします。</p> <p>それでは市長よろしくお願いいたします。</p>
-----	--

市長	<p>それではお手元の事項書に沿って議事を進めたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>まず、議題の（１）「防災・減災教育の推進」について、教育委員会事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p><b>【資料に基づき説明】</b></p>
市長	<p>それでは、事項書１の事項につきまして、皆様からご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。</p>
教育委員	<p>地域の避難計画ですが、地域の避難計画は、独居老人や高齢者などに重点が置かれていると感じます。</p> <p>学校防災教育の今後の取り組みの中にもありましたように、子どもだけにいるときとか、学校以外で発災したときや、発災後の子どもの様子の把握などに、多方面の情報の共有や連携ができることが必要かと思われます。この体制をぜひお願いします。</p>
市長	<p>その他にご意見ございますか。</p>
教育委員	<p>タウンウォッチングやHUG（ハグ）訓練（※避難所運営ゲーム）は大事な経験だと思います。</p> <p>中学生のHUG訓練を昨年視察させてもらったのですが、大人よりも中学生の方が落ち着いて話を聞いて行動できていたと思いました。地域の人たちにもっと広まればいいなと思います。</p> <p>今後も市内の学校で訓練を全学校が強化できていけたら良いと思うと同時に、学校にいないときや、発災後１日～２日後の、子どもたちの動き、防災教育にも力を入れて訓練指導をしていただけると良いと思います。</p> <p>それと志摩小・中学校の二次避難先ですが、志摩こども園は福祉避難所になっているとお聞きしました。</p> <p>旧布施田小学校の体育館ですと、314人も受け入れられるのかという問題もあります。</p> <p>その辺りも防災の計画を作るだけや訓練するだけで終わらず、学校運営協議会の人たちとも一緒に、地域との連携や具体的な話を重ねて、実効性のある避難計画にして欲しいと思います。よろしく願いし</p>

	ます。
市長	ありがとうございます。その他にご意見はございますか。
教育委員	<p>先ほど事務局の方からも、現実的なものにしていくという話がありましたが、災害時情報の伝達共有というのは非常に重要になってきます。大規模災害の場合、保護者へ連絡しても「すぐーる」で連絡がつかない、電話も使えない場合もあると思います。</p> <p>衛星電話が配備されている学校もあると聞きますが、使って慣れておくことも大切だと思いますし、連絡がつかない場合の手だても普段から確認や訓練をしておくことも重要だと思います。</p> <p>また、大規模災害発生時、水とトイレの確保が非常に重要となりますが、平時から自治会、特に防災担当者との連携をしっかりとするなど、学校と家庭・地域が連携した防災対策に取り組み、災害に備えていくべきだと思っています。</p>
市長	ありがとうございます。他にございますか。
教育委員	<p>防災袋についてですが、これまで各学校で個別に児童に配布していただいているのですが、学校で保管をしたり各家庭でそれを保管したりと学校によって違うようなので、学校に置いておく方がいいのか、家に持って帰って保管してもらうことが良いのかを、統一して欲しいと思いました。</p> <p>また、中身の点検は年に一度子どもたちと一緒に確認することで、子どもだけでなく保護者にも意識が共有できる機会になって良いと思います。</p>
市長	ありがとうございます。他いかがでしょうか。
教育委員	<p>能登の被災地では、防災教育を積み重ねていた中学生たちが、それまで学んだ知識を活かし、避難所などで力を発揮したということを知りました。</p> <p>学んだ知識でまずは自分の身を守る、そして人のために動き、助け合う姿は、日頃の積み重ねで身につけてきた防災教育の賜物だと思います。これからもぜひ有意義な防災教育を、積み重ねて欲しいと思います。</p>

市長	<p>ありがとうございます。その他はよろしいでしょうか。</p>
教育長	<p>先程、教育委員からも発言がありましたが、学校における防災教育というのは大きな柱であると考えています。これまではどちらかといえば、学校の中でどんな対応をするのか、ということに主眼が置かれていましたが、今は昔ながらの発災時に机の下に潜る対応だけで終わらずに、学校外でどんな対応をするのかということまで話が進んできておりますので、そこは今後学校現場の中で進めていかなければいけないことだと思えます。</p> <p>ただ、地域との連携となりますと、なかなか難しいところがあり、先ほどのお話にもありましたように、HUG訓練を踏まえた避難方法など、地域住民より小・中学生のほうがいろんな知識は持っていると思われれます。そのあたりの情報を子どもたちが家庭でどうやって繋いでいくかということも大事ですし、行政として地域の人達をどう啓発していくかということも、これから大事になってくるという気がします。</p> <p>先日、能登町の教育長・教育委員会と話し合う中で出た話題なのですが、実際にどこまでやれば防災教育として足りるのだろうかということについては、結局、自然災害で起こることはすべて想定外ということになり、「ここまでだったら起こることの100%カバーできる」ということは無いかと考えます。常に新しい苦難が襲ってくるので、その時に何をしていくかという方法論だけではなく、先程意識付けなどの重要性について指摘がありましたので、志摩市の教育の中にも、その要素は取り入れながら、例えば、逃げ方についても、小学生・中学生が「早く高台へ逃げて」と大きな声で地域の人たちに呼びかけたという事例とか、或いは避難所で荷物が届いたときに、「何か自分たちにやれることはないですか」と申し出た子どもたちがいるという話は、志摩市でも十分生かせる話ですし、そうあるべきだと思います。</p> <p>併せて発災時だけではなく、発災後或いは学校だけでなく、地域で子どもたちが自分の命を守ることに繋がるような取組ができるよう教育を進めていかなければならないと改めて思っているところです。</p>
市長	<p>ありがとうございました。私からも一言。</p> <p>正に皆様がおっしゃられることは、大変重要であると思えますし、想定していたことを上回るという表現が多分近いのだと思うのですが、私も5月に能登へお邪魔させていただき、教育現場以外のことも含めて、本当に自分たちが想定したことを遙かに超える状況が起きるというこ</p>

	<p>とを目の当たりにしました。</p> <p>また、教育現場においても、子どもたちあるいは地域の方々と、日々お話をさせていただく機会もあるのですが、驚かせるつもりはないですが、現在の被害想定はこう出ますよということを正しく伝え、正しく知り、それをクリアしていくためにどのように努力をしていくかということが、子どもたちを含め市民全体にとって、大変重要な今後の取組になると思っています。</p> <p>だからこそ、今、教育長がおっしゃっていた子どもたちの声や言葉、行動が、地域の人たちにとって、或いはそれぞれの場所において、大きな力になることもあると思いますので、「逃げ遅れゼロ」を掲げている志摩市とすれば、子どもたちの防災教育というのは、今後ますます重要になってくるといえると思います。今お話いただいた部分も含めて、しっかりと我々もやるべきことをさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。そのほか何かご意見ございますか。</p>
教育長	<p>もう1点。先ほど避難所の話で提案がありましたように、学校施設が避難所になるという可能性は十分あります。現在、防災危機管理室と学校現場との間で綿密な打ち合わせも始まっております。</p> <p>その中で、体育館以外の学校施設の利用というところまで話が至っていますが、「使える教室はどこなのか」という発想でこれまで進めてきましたが、想定外のことを考えたときに、「こことここが使えるよ」という準備だけでは多分駄目なのだと思います。今後、色々な協議をしていく中で、有事の際に使えないところはどこなのかという発想で、例えば、如実に出てくるところで職員室は多分難しいと思います。災害対応の本部にならないといけないことも含めて、職員室は絶対駄目なので他のところはどうか、という発想で物事を考えていく必要があると思っています。今後しっかり学校現場における防災について、自治会を含めて取組を進めていきたいと考えています。</p>
市長	<p>ありがとうございます。公共施設でいえば、実はこの市役所も避難所にはなっていません。本来は一人も受け入れられない施設なのですが、有事の際は、おそらくここに人が溢れ返ることが予想されますので、そこは想定しておかなければいけないかと思います。今、教育長がおっしゃられたような、多分学校現場で起こるようなことが、この公共施設でも起こり得るということで、今後シミュレーションしていくべく能登での視察が終わった後すぐ指示をさせていただいています。</p>

	<p>ただ、先ほどお話のあった教育現場での職員室と同じく、市役所内の執務エリアを避難所として使用するのなかなか厳しいので、執務エリア以外の部分を使用できないか検討しています。避難者を帰してしまうことはできませんので、しっかりと受け入れ体制を取ることができるような準備や、また、色々な機関とも連携していくという話もありますので、柔軟なご意見をいただければと思います。ぜひよろしくお願ひします。</p> <p>それでは議論が出尽くしたようですので、次の議題に移らせていただきます。議題2の「キャリア教育の推進」について、教育委員会事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p><b>【資料に基づき説明】</b></p>
市長	<p>ありがとうございました。議題2のキャリア教育の推進について、皆様からご意見がございましたら、よろしくお願ひいたします。</p>
教育委員	<p>キャリア教育の狙いという表現があります。「キャリア」を教育していくということは、どこに狙いがあるのだろうかということ色々と考えましたが、夢や希望という言葉がありましたし、それから生き方ということもありました。私はキャリア教育とは、生き方とか人生目標とか、生きがいを見つけるというところに繋がっていくのではないかと考えています。</p> <p>教育推進計画の中に「生きる力の育成」とあるのですが、この「生きる力の育成」というところがあんまりピンとこなくて、生きる力を育成できるのが、それは、きめの細かい本当に、事細かに教育をしていく中で、生きる力もついてくるのかなと思いますけれども、どうもインパクトが弱いような気がします。</p> <p>生きる力というよりもむしろ、今言ったように生き方とか生きがいを探してもらうことが、キャリア教育ではないかなと私は捉えています。</p> <p>夢や希望は大きい方、大きければ大きいほど良いと言われていました。</p> <p>グローバルな視点で物事が見ることができるように、また、そういった子どもたちにするためには、世界のことを知る機会を与えてあげたほうがいいのかと思います。</p> <p>さて、世界に貢献している人というのは、日本に結構います。特に発展途上国に行って活躍しているという日本人は非常に多い。NGOもそうですけれども、ボランティアでも活躍している。その人がどのような</p>

	<p>経路を通してそういう仕事に就いたのか、そしてどのような思いを持って働いているのかといったところを紹介していく。そのことが、憧れとか夢とか希望に繋がっていくのではないかと思います。</p> <p>色々な職業について教育されているし、体験教育とかもされているのですが、例えば、和食を持って行ってフランスの和食会で名を上げたすごい人がいるよ、というような事例を紹介する場合に、その人はどんな努力をして、そこまで行ったかを紹介する。そういうことを教えてあげたほうが、インパクトがあると思います。</p> <p>これからはグローバルな視点が必要な時代です。高学年になったら教えていった方が良くと思います。</p>
市長	<p>ありがとうございます。その他はどうでしょうか。</p>
教育委員	<p>日本文化を海外に発信したりする体験もキャリア教育の大事な一面であると思いますが、同時に、先ほど委員がおっしゃられましたが、グローバルな視野と志（こころざし）を持ちながら、世界に出て活躍する人材を育成するというのも、今志摩市に必要なキャリア教育の大事な一面であると考えます。</p> <p>そのために海外で活躍する人との出会い、或いは基礎知識、或いは必要な語学力の育成というものについても、今まで以上に意識的に実施していく必要があるのではないかと思います。</p>
市長	<p>ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。</p>
教育委員	<p>昨年、中学生海外派遣事業で、渡航前の勉強会を重ねたことや現地での経験で、人前で話すことが苦手ではなくなったという生徒がいました。また、自分たちの文化について再発見したという生徒もいました。</p> <p>学校のキャリア教育の場や、地域やその他の場で、いろいろな体験や、文化や人との、出会い、周りに目を向けたり、自分を表現したり、憧れたりして、まずはなりたい自分を見つけることが大事だと思います。そして、なりたい自分に必要なものを求める姿勢がキャリアに繋がると思います。</p> <p>語学資格、仕事、職人技などに出会う体験や、出会いや交流の場が多くあると良いと思います。</p> <p>また、育った志摩のいいところを発信したいと、仕事に就き、世界に目を向けて、語学や資格も学びたいなど、必要なキャリアを積んでいく</p>

<p>教育委員</p>	<p>姿にも、今からぜひ繋がって欲しいと思います。</p> <p>今、キャリア教育の推進について、様々な取組を紹介していただきました。本当に素晴らしい取組をそれぞれの学校で実施していただいていることを実感しました。</p> <p>キャリア教育を推進する上で、先ほど生き方というお言葉もありましたが、地域の人材とか、或いは教育力を積極的に活用するということはとても重要なことだと思っています。</p> <p>これまでたくさんのゲストティーチャーの方に来ていただいて、素晴らしい出前授業をやっていただいています。地元の学校限定とか、この学校だけというのは非常に勿体ない話ですので、各講師の方の情報を共有していただいて、できれば複数校、或いは全体で、というような形にしていいただければ、さらに効果的に進められるのではないかと思います。</p> <p>講師の方の意向もあると思いますが、できればそういった機会を捉えていただいて、人材バンク的なものを整備していくなど、今後考えていただければ、より効果的に進めることができるのではないかと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>そのほかよろしいでしょうか。</p>
<p>教育委員</p>	<p>保護者の観点からしますと、「その学校でそういうことをしていたのか」ということがあったりするので、本当は市内全部の学校に同じことをしていただきたいと思います。難しければ、「この学校でこういうことをしました」という報告書のようなものを、市内の子どもたちに配るとか、それを見た親御さんや子どもたちが、実は興味があったという保護者や子どもたちが、市の方へ問い合わせたときに、「こういうことをしました」と言っただけたりすると、全市内の子どもたちも一緒にできると思います。そのあたりのご検討よろしくお願いします。</p>
<p>教育長</p>	<p>人材バンクの話もしていただきましたが、今、事務局から資料に基づき説明がありましたとおり、多様な出会いの場を学校で作っていますが、すべての学校ですべての取組があるというわけではないので、それぞれの学校で工夫されて、子どもたちに必要なものを実施していくことが基本になります。</p> <p>ただ、言われたように、その中で効果的なものについては、蓄積でき</p>

市長	<p>るものがあると良いと思いますので、教育委員会の方で、それぞれの学校の取組から、将来へ繋ぎたい取組というような形で、集積蓄積できていけたらと思いますので、今の意見は大事にしていきたいと思います。</p> <p>キャリア教育自体は「キャリア教育」という科目があるわけではないので、普段の教科や特別活動を含め、学校生活の様々な場面でその要素が出てくるので、それをキャリア教育と結びつけていくという意識が必要かなと思います。</p> <p>色々な取組でも分かるように、一定の座学ではなくて、学校に誰かが来てもらうとか、学校からどこかに行って、誰かに会うとか、いろんな経験をするとか、触れ合いと経験ということが大きな柱になってくるかと思いますが、先ほど委員がおっしゃいました生き方を考えていくにあたり、色々な人を紹介していく意味はここだと思いますので、キャリアが膨らんでいく要因となるのは、人との出会いかなと思います。</p> <p>例えば、先日トリアスロンのスペインチームの選手が、東海小と神明小を訪問し、自分たちの思いを子どもたちに話をする場面がありました。どちらかという、トリアスロンの選手が来たから、「トリアスロンの選手だなあ」という捉え方を子どもたちはしているわけですが、そこで話される内容は、トリアスロンの話が半分ぐらいで、「実はトリアスロンをしていますが、私は警察官です」と。「私は大学の教授です」、「私は将来、医者を目指している学生です」という話が出てくるわけです。子どもたちはそこでまた新しい発見をすることになる。トリアスロンの選手だけだと思っていたけど、この人は自分の人生をちゃんと目標を持って生きているということに出会うわけで、そこが憧れになっていけば、例えば、今一生懸命野球やっている少年がいたとしたら、それはそれで大事なことなのだけれども、その野球で人生を開くのも一つだし、野球は一つの自分の人生のステージにして、その後自分が何をしたいのかということを考えていく、そういったことにも繋がっていくと思いますので、先日のスペイン選手たちとの交流というのは、意味があったなと思います。</p> <p>また、先程委員からありましたように、その取組をすべての学校でということも考えるのですが、相手の時間とかいろいろ含めて、もっと長いスパンで何年間かの計画で、多くの子どもたちが体験できるような機会にしていただけたいかなと思います。</p> <p>先ほど教育長がおっしゃられたように、今回ヨーロッパチャンピオンが来ていただいたので、本当に非常に競技レベルの高い方々でしたけ</p>
----	---

	<p>ど、それと比例して自分の人生設計というか、自分の将来をしっかりと刮目して、バックキャストされていました。</p> <p>目的を達成するために、自分は何すべきなのかということを常に自問自答しながらやっていっているような方々で、目的を達成するためにどのように目標設定をしてその目標をどうクリアしていくのか、どのスピード感で目的を達成してくのかということを、常にバックキャストをしているすごい方々でしたし、何より若く意識が高かったので、確かにたくさん子どもたちと触れ合っていただくことも大事だと思いました。もし、時間の制約があったのであれば、他の学校の子たちがそこへ行くという方法も考えられます。そこは学校との調整の中でどうなるかわかりませんが、うまくやりくりをしていくことが大事だと思います。</p> <p>でも、ようやくスペイン・トライアスロン連盟と交わしたホストタウン交流の覚書の中で、事業の成果が少しずつ生まれてきている、そういう事業でもあると思います。よく私は申し上げているのですが、全世界の人類と出会える人は世の中に一人もいないので、まず出会えるということはチャンスですし、その時間を共有することで何か生まれることは必然だと思います。そういう機会を増やしていく、実際にやっていくというのは重要だと思います。</p>
教育長	<p>確かに多くの機会を多くの子どもたちに与えるというのは大事なことです。今回、東海小と神明小は事業内容が少し異なります。神明小と東海小では授業を一緒に行いましたが、東海小では給食を一緒に食べました。給食を一緒に食べる時間というのは、すごく関係を深める時間でもあり、そこでのやりとりが子どもに良い刺激を与えますので、なかなか言い方が難しいですが、広く浅くじゃなくて、深いものが子どもたちに影響与えるということもあるので、参考にさせていただきます。</p>
教育委員	<p>距離をより縮められるようにしてあげてください。</p>
市長	<p>今回のG7でいえば、(投影している)写真はカナダの方なのですが、先日、(写真の)左に写っている方に、尾鷲の市制70周年のイベントの際にお会いしまして、日本語がすごく堪能な方なのですが、本当に子どもたちに一生懸命に物事を伝えてくれますし、子どもたちに何か感じて欲しいという思いが十分に伝わってきました。</p> <p>もちろん、スペインの方々も同様です。私は残念ながら、学校ではご一緒できなかったのですが、こちらに来て何か残していきたいという思</p>

<p>教育長</p>	<p>いで来ていただくことが多いので、子どもたちと接する機会を増やしていくことは大切だと思います。もちろん先ほど教育長が言われたとおり、学校によっては濃淡が出てしまうかもしれませんが、ここはすごく重要なと思います。</p> <p>そのほか何かありますでしょうか。</p> <p>パラオの話が出ましたので、委員が言っていたキャリア教育が、目標をしっかり持つのと同時に、しっかりした語学という話があったと思います。確かにキャリア人生を開いていくためには、希望だけでは開けませんので、それなりの力をつけていくという場面も大事になってきます。</p> <p>それが本来、それぞれの教科の役目にはなるのですが、去年パラオへ行った子どもたちが、パラオへ行くということ、或いは行って来たことを含めて、英語の授業での姿勢が変わったという報告がありました。</p>
<p>事務局</p>	<p>パラオへは去年6名の子どもたちが行かせていただいた。その際、面接するときも英語で喋ってもらったのですが、その後の授業の一つ一つが、自分たちもパラオへ行くので、英語で喋らなければいけないという思いを持ったり、事前学習を昨年4回オンライン上で繋いで実施しましたが、自分たちで言葉を選んで何を喋るか、何を教えるかということを考えていた。それが今までやってきた英語教育が意味のあるものになった。英語教育を受ける姿勢が変わったという話を聞かせていただきました。今回の授業はどうかと聞いてみたところ、やはり英語をしっかりと勉強をしなければいけないなという感想がありましたので、今後分科会へも行くわけですが、今回もパラオへ行った中で実感してもらったことを他の子たちにも還流できればと思います。</p>
<p>教育委員</p>	<p>大きいですね。「学ぶ」から「使う」ところへの転換。使うための英語。そんな感じがよく見えたように思いました。</p>
<p>市長</p>	<p>パラオに行った6人が帰ってきた後で、他の生徒たちにも、そのような意識の高まりがあつたりしましたか。</p>
<p>事務局</p>	<p>文化祭で磯部中と志摩中に行かせていただいた。そこで子どもたちが15分ほど前に出て写真を見せながら日本語だけでなく、英語でも話をし</p>

	ていく様子を見た。それを子どもたちがしっかりと聞いてくれる状況だった。その部分では、下級生に関しては、自分もその場所に立てればいいかなという話をしていました。
市長	ありがとうございました。そのほか何かあれば。
教育委員	今年は志摩市の中学校全校から必ず誰かが出ているということは、そういう機会が全部の中学校にあるということで大変嬉しいです。
市長	今年は頑張って 10 人分の予算をつけさせていただいたのですが、今回 6 人の皆さんの成長・変化が、報告会のときに顕著に表れていたように思います。こんなに子どもたちは変わるのかと驚きました。現地滞在は 3 日ぐらいですか。
教育長	現地は 3 日ですね。
市長	飛行機に乗るとか、色々なところへ渡航していくということも経験にはなるのですが、現地滞在 3 日でここまで子どもたちに良い変化が起きるとするのは、考えにくいことではないのですが、子どもの可能性はすごいと感じました。教育長からのご提案もいただき中で 10 人という形で今回も実現できるので、ぜひ今年も 10 人の子どもたちが良い形で変化を起こしていただければと思います。本当はもっとたくさんの子どもたちに行っていただけると良いと思いますが、そこは機会がありましたら。
教育委員	自分のお金でまたパラオに行きたいという子がいましたが、それがパラオだったり、ヨーロッパだったり、カナダだったりと広がっていけばこの機会はとても大切だと思います。
市長	とても心地よい負荷をいただきました。でも、本当に素晴らしい事業なので続けていきたいと思えますし、更に広げていければと思います。そのほか何かありますでしょうか。
教育長	今回の教育会議の議題が、キャリア教育ということで、私たちも話し合いをさせていただきましたが、キャリア教育自体が、海外交流が主眼であるわけではないですが、今回協議をしている中で、キャリア教育を

	<p>進める中で世界に目を向けるという必要性を、それぞれが考える機会が出来ましたので、学校現場で今後どうしていくかということについて、今後練っていかねばならないと感じます。</p> <p>現在、キャリア教育の1つの視点として、企業教育も提案をしていますが、なかなか難しく、市内に在籍している企業家の方もおりますので、そういった方のお話を聞くような機会がもっともっと作れば良いと思っています。</p> <p>志摩市に居ながら仕事ができるというところで、それも大事なものかなということを知りましたが、今回、国際交流・国際感覚を磨くということも、新たな側面として提案していただいたように思います。ありがとうございます。</p>
市長	短期のインターンシップみたいなことですか。
教育長	それが職場体験にはなります。高校でのインターンシップのような名前では呼んでいません。
市長	<p>ありがとうございます。その他よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、出尽くしたようですので、議題を終わらせていただきます。事項書のその他事項について何か発言があれば、事務局からよろしくをお願いします。</p>
事務局	とくにございません。
市長	<p>それではないようですので、以上で予定をされておりました議事すべて終了させていただきます。</p> <p>これをもちまして議長の任を解かせていただきます。ありがとうございます。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは以上をもちまして、令和6年度第1回志摩市総合教育会議を閉会いたします。誠にありがとうございました。</p>